研究テーマ 潰瘍性大腸炎関連腫瘍サーベイランス内視鏡精度向上

所属 炎症性腸疾患内科

特命教授 渡邊 憲治
https://researchmap.jp/Kenji-Watanabe

研究分野	炎症性腸疾患の病態、診断、治療。大腸腫瘍性病変の内視鏡的診断と治療。 小腸疾患。
キーワード	炎症性腸疾患、潰瘍性大腸炎、腫瘍、dysplasia、癌、サーベイランス内視鏡

研究室URL： http://www.med.u-toyama.ac.jp/inter3/patient/ibd.html

研究の背景および目的

・欧米の潰瘍性大腸炎関連腫瘍のガイドラインは色素拡大内視鏡やimage enhanced endoscopyによるサーベイランス内視鏡を推奨しているが、病理所見と対比した検討を行っていない。拡大内視鏡観察は生体内における病理所見の推測であり、sporadicな炎症非関連の大腸腫瘍とは特性が異なる潰瘍性大腸炎関連腫瘍に対しては、従来の工藤・鶴田分類やJ-NET等の所見分類は、本来、用い得ない。
・高精度のサーベイランス内視鏡でlow grade dysplasiaの段階で病変を発見できれば、外科手術による大腸全摘術でなく内視鏡的切除で治療できる可能性がある。
・研究者は厚労省研究班の本分野のプロジェクトや大腸癌研究会のガイドライン、国内多施設研究の研究責任者等を通じて本分野の研究を長年継続してきた。この経験により、径5mm以下のlow grade dysplasiaの段階で発見するサーベイランス内視鏡を実践している。



■主な研究内容

- Narrow Band Imagingの全大腸内視鏡検査による潰瘍性大腸炎サーベイランス内視鏡の効率化
- 色素拡大内視鏡観察による潰瘍性大腸炎関連腫瘍の質的診断
- low grade dysplasiaとhigh grade dysplasiaの内視鏡的鑑別診断
- Treat-to-target戦略における潰瘍性大腸炎サーベイランス内視鏡精度向上
- 潰瘍性大腸炎関連腫瘍ハイリスク内視鏡所見に関する検討
- 狙撃生検による潰瘍性大腸炎関連腫瘍の質的診断
- 潰瘍性大腸炎invisible flat dysplasiaの検討
- 潰瘍性大腸炎サーベイランス内視鏡診断アルゴリズムの作成
- 潰瘍性大腸炎関連腫瘍に対する内視鏡的切除の適応の検討
- 潰瘍性大腸炎における鋸歯状病変の検討

期待される効果・応用分野

- 潰瘍性大腸炎サーベイランス内視鏡の効率化と精度向上
- 潰瘍性大腸炎関連腫瘍早期発見による外科手術回避と予後向上
- 潰瘍性大腸炎サーベイランス内視鏡のAI診断
- 潰瘍性大腸炎関連腫瘍早期発見のためのバイオマーカー開発
- 潰瘍性大腸炎関連腫瘍の分子生物学的検討

■共同研究・特許など

・潰瘍性大腸炎関連腫瘍サーベイランス内視鏡におけるNBI（narrow band imaging）の検討と診断アルゴリズムの作成（Navigator Study）

富山大学研究者プロファイルPure URL：
https://u-toyama.elsevierpure.com/ja/persons/kenji-watanabe/